

下地・流用

ちよつと
拝見

流用

色バタ
+ スミ40%
50a新3B

となりの DAMカート

30a新3M

鹿児島大学病院の巻

38a新3M

2ミ

0.5ミケイ
スミ20%
133ミ↑
100ミ

×56ミ
Y68ミ

0.3ミケイ
色バタ+スミ40%
46ミ↑
166ミ

白マト

×23ミ
Y205ミ

基本情報

手術室 16 室に対して DAM カート 1 台

W 55 cm (天板拡張時 83 cm) × D 58 cm × H 96 cm

DAM カートは手術室中央にある麻酔科モニター室
(全 16 室の生体情報モニターおよび術野画像、室内の全体画像が見られる) の前に配置している。
最も遠い手術室まで約 40 秒。

McGRATH™ MAC 本体、アンビューバッグは全手術室に常備している
(普段から McGARTH MAC を第一選択としている)。

情報提供 鹿児島大学病院 五代 幸平 先生

14a新3B

指定外は、11a新3B

1234 ● LISA VOL.11 NO.1 2004-1

色バタ+スミ40% 文白2ミ
6ミ↑
142ミ

ちょっと拝見◆となりのDAMカート

上面(天板)

- エアウェイスコープ(AWS)本体
- KING VISION® 本体
- 物品リスト

↔ 55^分

6^分
(以下同)



2^分20^分

×161^分
Y98^分

93^分↗
36^分



※用
(以下同)

引き出し1段目

- ティスボーザブルマスク (大/小)
- Macintosh 型喉頭鏡 ブレード (#3/#4)
- 直視型喉頭鏡ハンドル
- 気管チューブ (5.5/6.0/6.5/7.0/7.5/8.0/8.5 mm)
- キシロカイン® ポンプスプレー 8%
- カテーテルマウント
- ヘッドバンド

↔ 47^分



×70^分
Y161^分

100^分↗
85^分

引き出し2段目

- McGRATH MAC 本体およびブレード (#2/#3/#4/X)
- McGRATH MAC バッテリー

↔ 29^分

2^分20^分



×12^分
Y98^分

93^分↗
24^分



↔ 10^分 + 2^分5^分



×40^分
Y125^分

102^分↗
81^分

引き出し4段目

- LMA プロシール® (#3/#4)
- i-gel® (#3/#4)
- 経口エアウェイ (90/100 mm)
- カフ用シリンジ (10/20 mL)
- 潤滑ゼリー

↔ 54^分

ちょっと拝見◆となりのDAMカート

引き出し3段目

- Melker 緊急用輪状甲状膜切開用カテーテルセット
- サクシオンセーフ シーベル Y
- KING VISION ブレード (スタンダード #3/ チャンネル #3)
- AWS イントロック NK (SL/LL)

コメント

当院は鹿児島県内唯一の大学病院であり、毎月のように困難気道症例を経験する。困難気道症例には、麻酔担当医が必要なデバイスのみを各手術室へ持ち込むことで対応しており、DAMカートは使用していない。使用頻度が低いため、物品の補充は年に数回、不定期に行っている。

DAMカート近くの機器置き場には、シングルユースの気管支ファイバースコープaScope™ 4のほか、ビデオ喉頭鏡C-MAC®S、グライドスコープ、UEスコープビデオ喉頭鏡、MVSスタイルットスコープ、ライトワンドなどの気道デバイスを配置している。

最近、CICV (cannot intubate, cannot ventilate) になりかけた症例を経験した。ハローベストを装着した中年女性で、頸椎後方固定術予定であった。全身麻酔導入後のAWSによる喉頭蓋視認ができず、McGRATH MAC (Xブレード) による喉頭展開も困難であった。気管支ファイバースコープで経鼻気管挿管を試みるも、喉頭浮腫で声帯が視認できなかった。徐々にマスク換気も困難となったため、耳鼻科医が緊急気管切開術を行うことでCICVを回避した。気道浮腫の恐ろしさを再認識した症例であった。

気道デバイスの進歩によりDAMカートの使用頻度は激減しており、本連載をきっかけに当院でのDAMカートの在り方について見直したいと感じている。

↔ 10^分 + 2^分5^分

×128^分
Y56^分

0.2^分4^分

C75+M50

205^分↗
63^分

5^分4^分

C75+M50

文書・直書き

Y65^分

13a

ロダ>M

↓ベ>

22^分

17w誌

↔ 10^分 + 2^分5^分